



令和2(2020)年度
事業報告書



「知」をつなぐ。
「未来」を創る。

学校法人金井学園

【法人の概要】 1



I・法人の概要

1. 建学の精神	3
2. 学校法人の沿革	4
3. 設置する学校・学部・学科等	6
4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況	7
5. 役員（理事・監事）の概要	8
6. 評議員の概要	9
7. 学校長	10
8. 教職員の概要	10
9. 組織図	11

II・事業の概要

1. 第3次中期計画	12
2. 福井工業大学	13
3. 福井工業大学附属福井高等学校・福井中学校	21
4. 法人本部	23
5. 主な事業の目的及びその進捗状況	25
6. 施設等の状況	25

III・財務の概要

1. 決算の概要	
1-1. 資金収支計算書	26
1-2. 事業活動収支計算書	27
1-3. 貸借対照表	28
2. 主な財産比率比較	
2-1. 主な財産比較比率	29
3. その他	
3-1. 有価証券の状況	30
3-2. 借入金の状況	30
3-3. 学校債の状況	30
3-4. 寄付金の状況	31
3-5. 補助金の状況	31
3-6. 収益事業の状況	32
3-7. 関連事業者との取引の状況	32
4. 来年度以降の展望	32



1. 建学の精神

金井 学園
建学の精神

悠久なる日本民族の歴史と伝統とに
根ざした愛国心を培い、節義を重んずる
人格の育成、科学技術の研鑽に努め、
以て人類社会の福祉に貢献する。



2. 法人の沿革 (令和3年5月現在)

昭和 25 年 4 月	福井市豊島上町 9 3 番地に中学校卒業を入学資格とする（2 年制）と専科（夜間 1 年制）を有する北陸電気専門学校を創設。
27 年 4 月	本校を 3 年制とし、高校教科書による単位修得に改める。
27 年 11 月	生徒数の増加及び実験室等の整備のため福井市明里町 29 番地に移転。
33 年 4 月	建設科を増科。
34 年 2 月	学校法人金井学園創立認可。
34 年 4 月	福井実業高等学校として発足。学校教育法に規定する工業課程の高等学校として電気科・建設科を置く。
34 年 11 月	福井市東明里町 20 番地に校舎新築移転。
35 年 4 月	福井実業高等学校に生活科学科(女子)増科。
36 年 4 月	福井実業高等学校に電気通信科増科。
36 年 11 月	福井実業高等学校同科廃止。
37 年 4 月	福井実業高等学校に電子科・機械科増科。
37 年 12 月	福井短期大学設置認可。
38 年 4 月	福井短期大学(電気科)開学。
39 年 4 月	福井短期大学に機械・家政科増科。教職課程設置。
40 年 2 月	福井工業大学設置認可。
40 年 4 月	福井工業大学(電気工学科・機械工学科)開学。
40 年 4 月	福井短期大学家政科を独立して、福井女子短期大学と改称。
40 年 4 月	福井実業高等学校の生活学科を普通科(女子)と改称。
40 年 10 月	福井実業高等学校を福井高等学校と改称。
41 年 4 月	福井工業大学に建設工学科増科。教職課程設置。
41 年 4 月	福井女子短期大学家政科を家政・食物栄養に専攻分離。
41 年 4 月	福井高等学校に普通科(男子)増科。
42 年 4 月	福井高等学校にデザイン科を増科。電子科を電気科に統合。建築科と改称し、建築・土木の 2 コースとする。
43 年 4 月	福井高等学校に衛生看護科増科。
44 年 4 月	福井高等学校に自動車整備科増科。電気科にテレビコース開設。
45 年 4 月	福井女子短期大学の家政専攻を家政経済専攻と改称。
47 年 4 月	福井高等学校に航空機整備科を増科。
48 年 4 月	福井工業大学に応用物理学科増科。
52 年 8 月	福井女子短期大学廃止。
53 年 2 月	福井高等学校を福井工業大学附属福井高等学校と改称。



54年4月	福井工業大学応用物理学科の改称を環境安全工学科に変更。
55年4月	フクイモダンデザイン専修学校設置。
58年4月	福井工業大学機械工学科を機械工学専攻・電子工学専攻に専攻分離。
60年4月	福井工業大学に大学院（工学研究科）設置。
61年4月	福井工業大工学部期間を付した定員増(平成11年迄)
62年4月	福井工業大学に経営工学科設置。
63年4月	福井工業大学附属福井高等学校に商業情報科設置。
平成 元年 4月	福井工業大学附属福井中学校設置。
元年 4月	別科（工学専修科）に土木工学専攻・化学計測専攻・経営情報学専攻を開設。
元年 4月	福井工業大学工学研究科博士課程開設。
4年 4月	福井産業デザイン専修学校の高等課程を廃止し、商経専門課程を設置。
7年 12月	福井工業大学に編入学制実施。
10年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に衛生看護専攻科を設置
13年 4月	福井工業大学に宇宙通信工学科設置
14年 4月	福井工業大学電気工学科を電気電子工学科に名称変更
15年 4月	福井産業デザイン専修学校を廃止
15年 7月	収益事業の認可
16年 4月	福井工業大学経営工学科を経営情報工学科へ名称変更
16年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に工業科、情報科を設置
17年 4月	福井工業大学に原子力技術応用工学科を設置
21年 4月	福井工業大学にデザイン学科を設置
22年 4月	福井工業大学附属福井高等学校に特別進学科・進学科を設置
23年 4月	福井工業大学に産業ビジネス学科を設置
24年 4月	福井工業大学建築生活環境学科を設置
27年 4月	福井工業大学にスポーツ健康科学部スポーツ健康科学科を設置
27年 4月	福井工業大学に環境情報学部環境・食品科学科、同経営情報学科、及び同デザイン学科を設置
27年 4月	福井工業大学工学部電気電子情報工学科を電気電子工学科へ、また同建築生活環境学科を建築土木工学科へ名称変更
30年 4月	収益事業（若狭町みさき漁村体験施設の指定管理者としての請負業）の認可
令和 2年 4月	福井工業大学環境情報学部環境・食品科学科を環境食品応用化学科へ名称変更
3年 4月	学校法人新和学園と合併



3. 設置する学校・学部・学科等 (令和2年5月1日現在)



○工学部

- ・電気電子工学科
- ・機械工学科
- ・建築土木工学科
- ・原子力技術応用工学科

○環境情報学部

- ・環境食品応用化学科
- ・経営情報学科
- ・デザイン学科

○スポーツ健康科学部

- ・スポーツ健康科学科

○大学院

- ・応用理工学専攻 (博士前期)
- ・社会システム学専攻 (博士前期)
- ・応用理工学専攻 (博士後期)
- ・社会システム専攻 (博士後期)



福井キャンパス



あわらキャンパス



福井工業大学附属
福井高等学校
Fukui Senior High School

- 特別進学科
- 進学科
- 衛生看護科
- 衛生看護専攻科



福井工業大学附属
福井中学校
Fukui Junior High School





4. 学校・学部・学科等の学生・生徒数の状況

4-1. 福井工業大学・大学院 (令和2年5月1日現在)

(単位 人)

学部	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
工学部	機械工学科	80	93	372	
	電気電子工学科	80	88	363	
	原子力技術応用工学科	30	36	107	
	建築土木工学科	60	87	326	
	計	250	304	1,168	
環境情報学部	デザイン学科	50	68	250	
	環境食品応用化学科	50	55	177	
	経営情報学科	80	90	407	
	計	180	213	834	
スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	70	87	323	
	計	70	87	323	
	合計	500	604	2,325	
工学研究科(博士課程前期)	応用理工学専攻	17	6	7	
	社会システム学専攻	8	6	18	
	計	25	12	25	
工学研究科(博士課程後期)	応用理工学専攻	4	4	9	
	社会システム学専攻	2	6	14	
	計	6	10	23	
	合計	31	22	48	

4-2. 福井工業大学附属福井高等学校・衛生看護専攻科 (令和2年5月1日現在)

課程	学科	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	特別進学科	120	117	313	
	進学科	290	377	1,079	
	衛生看護科	40	32	118	
	合計	450	526	1,510	
	衛生看護専攻科	40	29	70	
	合計	40	29	70	

4-3. 福井工業大学附属福井中学校 (令和2年5月1日現在)

課程	入学定員数	入学者数	現員数	摘要
全日制課程	80	82	230	

4-4. 学生・生徒総計 (令和2年5月1日現在)

	入学定員数	入学者数	現員数
学生・生徒総数	1,101	1,263	4,183



5. 役員(理事・監事)の概要 (令和3年5月1日現在)

定員数 理事 10名 監事 2名

役職名	氏名	常勤 非常勤	選任条項	摘要
理事長	金井 兼	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	1992年12月理事就任 1992年12月理事長就任
常務理事・法人本部総務部長	松浦 悦郎	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	2013年4月理事就任 2013年4月常務理事就任
福井工業大学学長	掛下 知行	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	2018年4月理事就任 2018年4月学長就任
福井工業大学副学長	池田 岳史	常	寄附行為第十二条 第一項第三号	2019年4月理事就任 2017年4月副学長就任
附属福井高等学校・中学校校長	佐々木 栄秀	常	寄附行為第十二条 第一項第一号	2019年12月理事就任 2020年4月校長就任
附属福井高等学校教頭	藤井 貴広	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	2020年4月理事就任 2019年4月附属高校教頭就任
法人本部秘書室長	道内 由佳里	常	寄附行為第十二条 第一項第二号	2016年4月理事就任 2016年4月秘書室長就任
理事	佐藤 良一	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	1998年4月理事就任
理事	井上 毅	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	2013年7月理事就任
理事	渡辺 雅之	非	寄附行為第十二条 第一項第三号	2020年4月理事主任
監事	吉田 五衛	非	寄附行為第十三条	2020年4月監事就任
監事	野村 孟弘	非	寄附行為第十三条	2020年4月監事就任



6. 評議員の概要 (令和3年5月1日現在)

定員数 21名

学内・学外	氏名	現職	選任条項	上段: 就任年月日 下段: 重任年月日
(学内)	金井 兼	理事長	寄附行為第二十条 第一項第一号	1994年8月8日 2018年8月8日
(学内)	松浦 悦郎	常務理事 法人本部総務部長	寄附行為第二十条 第一項第一号	1990年7月2日 2018年8月8日
(学内)	掛下 知行	福井工業大学 学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	2018年4月1日
(学内)	佐々木 栄秀	附属高等学校・中学校 校長	寄附行為第二十条 第一項第一号	2019年4月1日
(学内)	池田 岳史	福井工業大学 副学長	寄附行為第二十条 第一項第一号	2019年4月1日
(学内)	藤井 貴広	附属高等学校 教頭	寄附行為第二十条 第一項第一号	2020年4月1日
(学外)	佐藤 良一	無職	寄附行為第二十条 第一項第一号	1998年4月1日 2018年8月8日
(学外)	井上 毅	弁護士	寄附行為第二十条 第一項第一号	2013年7月2日 2018年8月8日
(学外)	渡辺 雅之	税理士	寄附行為第二十号 第一項第一号	2020年4月1日
(学内)	佐々木 弘	福井工業大学 教授	寄附行為第二十条 第一項第二号	1988年4月6日 2018年8月8日
(学内)	吉村 喜信	福井ホースパーク 苑長 福井工業大学非常勤講師	寄附行為第二十条 第一項第二号	2001年11月26日 2018年8月8日
(学内)	道内 由佳里	法人本部 秘書室長	寄附行為第二十条 第一項第二号	2016年4月5日 2018年8月8日
(学内)	渡邊 徹也	法人本部 経営企画部長	寄附行為第二十条 第一項第二号	2019年4月1日
(学内)	宮本 由佳子	法人本部経営企画部 経営企画課長	寄附行為第二十条 第一項第二号	2018年4月1日 2018年8月8日
(学外)	山田 健治	社会福祉法人 やしろ中央会 理事長	寄附行為第二十条 第一項第三号	1974年4月23日 2018年8月8日
(学外)	金井 泉	無職	寄附行為第二十条 第一項第三号	1994年8月8日 2018年8月8日
(学外)	松本 清次	江守商事 常勤監査役	寄附行為第二十条 第一項第四号	2004年7月6日 2018年8月8日
(学外)	渡邊 忠造	税理士	寄附行為第二十条 第一項第四号	2008年4月1日 2018年8月8日
(学外)	藤井 求	無職	寄附行為第二十条 第一項第四号	2008年4月1日 2018年8月8日
(学外)	高橋 正直	(有)高橋地所 代表取締役	寄附行為第二十条 第一項第四号	2013年4月1日 2018年8月8日
(学外)	高橋 正恭	(株)C&B 代表取締役	寄附行為第二十条 第一項第四号	2015年4月1日 2018年8月8日



7. 学校長 (令和3年4月現在)

学校名	役職名	氏名
福井工業大学	学長	掛下 知行
福井工業大学附属福井高等学校	校長	佐々木 栄秀
福井工業大学附属福井中学校		
福井製菓専門学校	校長	藤井 幸子
福井県医療福祉専門学校	校長	栗原 美幸
福井公務員専門学校		

8. 教職員の概要 (令和2年5月1日現在)

(単位：人)

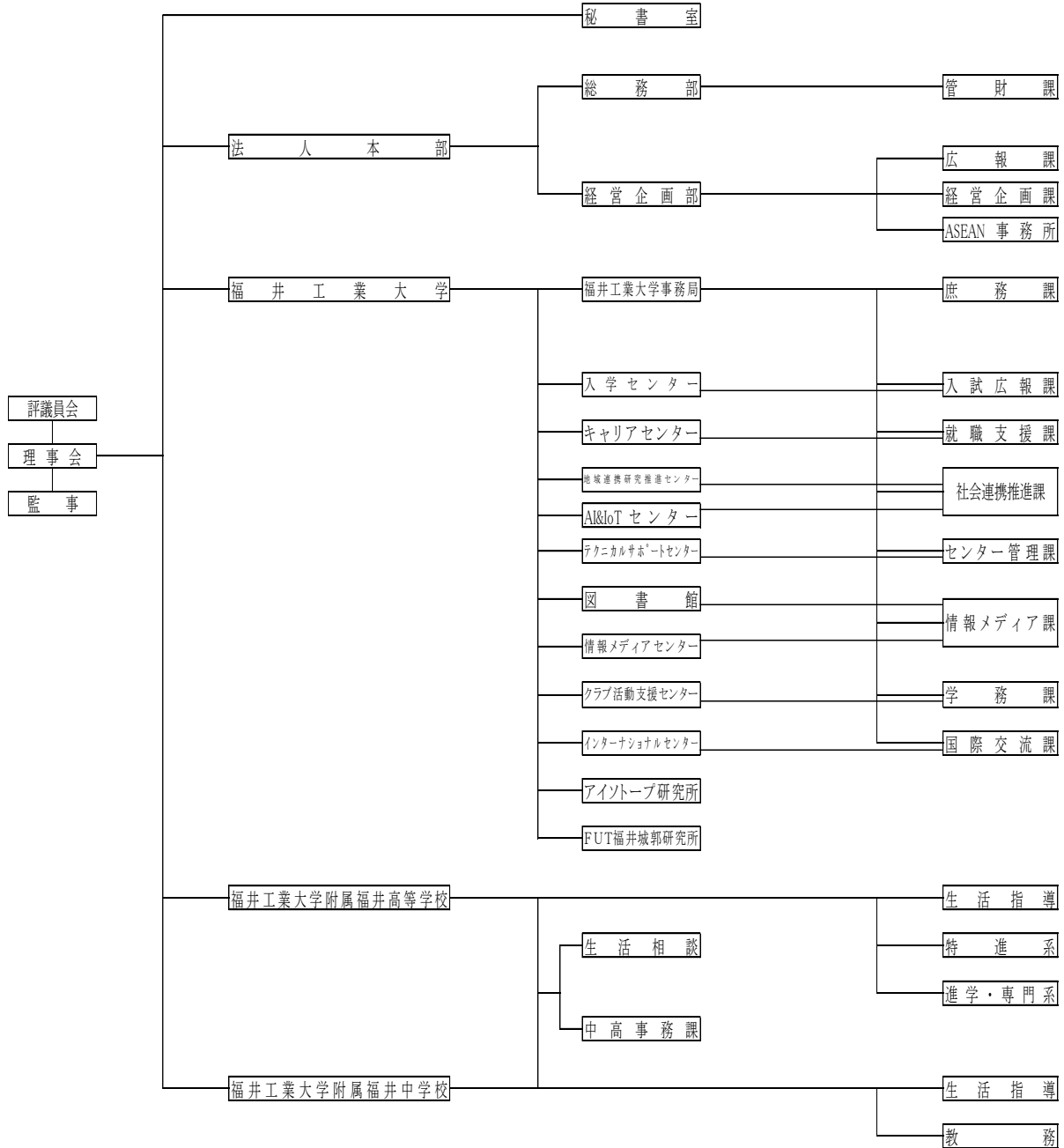
	法人本部	福井工業大学	福井工業大学附属福井高等学校	福井工業大学附属福井中学校	合計	
教員	本務		96	60	18	174
	兼務		72	121	16	209
職員	本務	37	73	10	1	121
	兼務	4	14	11	1	30

「知」をつなぐ。
「未来」を創る。





9. 事務組織図 (令和2年4月現在)



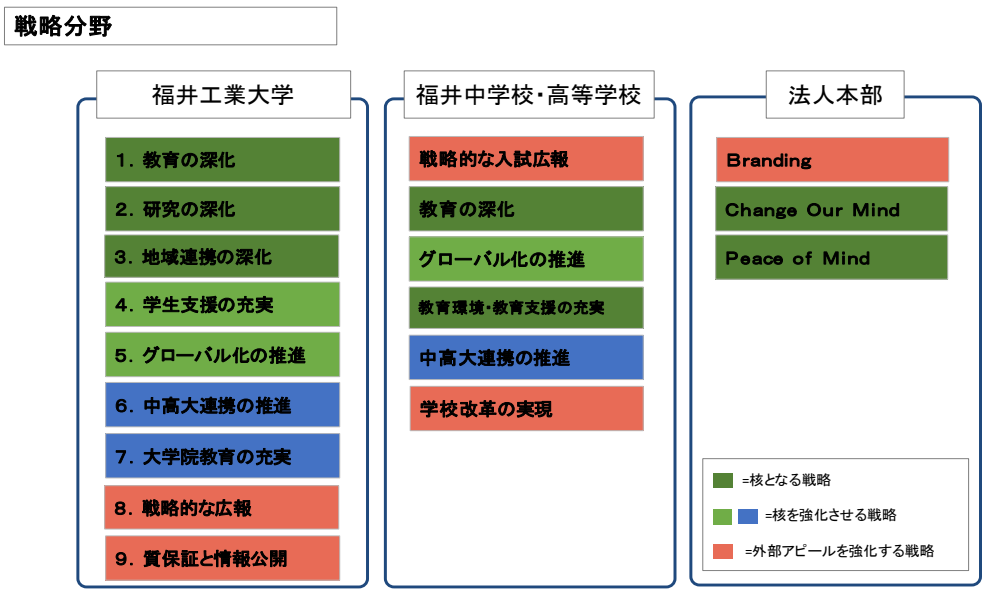
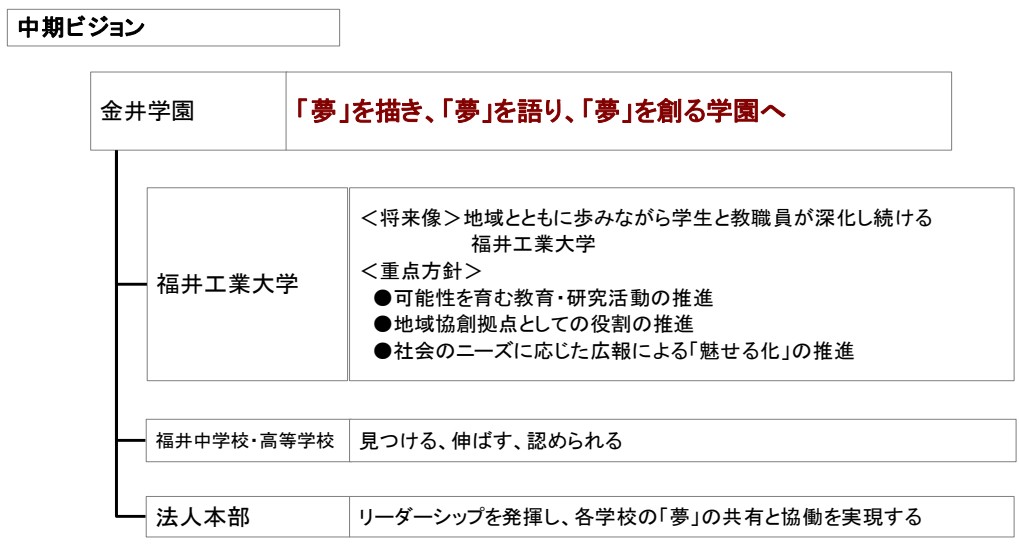


1. 第3次中期計画

第3次中期計画（2019年度～2024年度）

第2次中期経営計画に続く第3次中期計画「“夢”描き “夢”を語り “夢”を創る学園へ」を中期ビジョンとして掲げ実行します。

以下の【戦略分野】からなり、各学校の行動目標は、次のとおりです。





2. 福井工業大学

教育の深化

1. 学生の主体的な学びの促進と展開

新型コロナウイルス感染がまん延している状況の中、オンラインによる初年次教育プログラムの実施やアクティブラーニング型の授業の実施など、学生の主体的な学びの拡大に取り組みました。

(1) 学習管理システム「manaba」の活用

令和元年度に授業の予習・復習など授業外学習の促進や学生とのコミュニケーションルール・フィードバックツールとして導入した学習管理システム「manaba」を、令和2年度のコロナ禍におけるオンライン授業の核となるツールとして運用し、授業を実施しました。



(2) オンラインによる初年次教育プログラムの実施

これからの大学生活を送る上で大事な「1. 自己理解を深める」「2. 他者が自己理解を深めることに協力する」ことを目的とした全学科横断型のワークショップをオンラインにて実施しました。新入生 605 名中 472 名 (78.0%) が参加し、学生間で相互理

解を深めるとともに、交流を図りました。

2. 3つのポリシーに沿った教育体系の整備と見直し

教育の質向上の基盤となる基盤教育機構や教務委員会、FD・SD推進委員会を中心に、「学生の主体的な学修」等の新たな教育・学習方法に取り組みました。

(1) 教育の質向上に向けたカリキュラム点検の実施

各学部・学科単位で時代に即したカリキュラム編成を行っています。令和2年度は早期に学生のキャリア形成意識を育み、就職活動の準備を進めるため、教養分野におけるキャリア形成科目の開講時期を見直すなど、ディプロマ・ポリシーで定められた資質・能力の修得に向けて、組織的に教育編成の点検に取り組んでいます。

(2) オンラインによる教育改善を目的とした研修会の実施

大学運営に関する喫緊の課題を取り上げ、教職協働でその解決の方策を探る機会として研修会を行っています。令和2年度は「With/Post コロナにおける大学教育の創造」と題して実施しました。コロナ禍における新たな環境下での授業の試みに加え、オンライン授業を通じて明らかになった課題を共有し、ポストコロナを見据えた教育改革の在り方について議論しました。



3. 大学での学びやプロジェクト活動を実施できる学修環境の整備

コロナ禍での教育の活性化のための新たな取り組みを行いました。

(1) いつでもどこでも受講可能な教育環境の整備

令和2年度は多くの科目がオンライン授業となりました。オンライン授業の方法は、「オンデマンド型授業」と「双方向型授業」の2つがあります。オンデマンド型授業のツールである学習管理システム「manaba」をオンライン授業の核として活用し、双方向型授業のツールとして「Microsoft Teams」のアカウントを令和2年度より学生・教職員に発行しました。オンライン授業では、「manaba」と「Microsoft Teams」の機能を最大限に活用して授業を行いました。

(2) 自宅の通信環境が不安な学生向けの支援を実施

オンラインでの授業形態となり、自宅での通信環境の準備ができない（間に合わな

い）学生の皆さんに、大学の講義室を一部開放し、オンライン授業を受講できる環境を整備しました。大学への入構禁止期間を除き、できる限り講義室を開放しオンライン授業の受講を支援しました。



(3) 授業・自学自習のICT環境を充実化

授業・自学自習環境の更なる充実化を図り、学生・教員の学修環境向上を目的とした整備計画案を策定・実施しました。令和2年度はWi-Fiのアクセスポイントを250台まで増設できる無線LANコントローラーの更新に取り組みました。Wi-Fi利用環境の拡張計画を進め、学内においてLMS(Learning Management System)やMicrosoft Teams、eポートフォリオの利用環境拡充の基盤を整備していきます。

*LMS：学習管理システム

研究の深化

1. 地域活性化の役割を担う研究活動の推進

研究の成果は、研究の質を高めるための過程であると共に、地域に還元できるものであることが求められています。研究を深化させ、地域貢献に役立つ研究を推進するために、令和2年度は連携自治体や大学(北陸先端科学技術大学院大学)との研究に関する情報交換を行いました。

また、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所(JAXA 宇宙科学研究所)や自治体と連携した「ふくい PHOENIX ハイパープロジェクト」の活動、福井県補助事業を活用した県内企業、自治体との活動を実施するとともに、産官学連携活動をコーディネートするための人材育成としてリサーチアドミニストレータ養成・輸出管理に



関する研修会に職員が参加しました。



2. 研究活動に集中できる環境の整備

若手研究者に向けた研究費の充実、環境整備を図るために、「若手研究費での研究期間の適正について」「若手研究費の活用について」「若手研究費での成果について」などのアンケート調査を実施しました。

また、教員の研究実績として2名が専門誌に掲載、2名が研究活動を評価され賞を受賞しました。

3. 積極的な研究活動の発信

コロナ禍により多くの展示会が中止となったが、オンラインでの開催となった展示会(「北陸技術テクノフェア」「ふくいITフォーラム」「フクイ建設技術フェア」)に積極的に参加し、新たなイメージ動画を配信するなど本学の研究を紹介しました。

また、令和2年度から産学連携に繋げるために教員の研究内容をまとめた冊子「研究紹介」を作成し、県内企業や自治体を中心に配布しました。

地域連携の深化

1. 地域・未来志向型の教育・研究・学修活動への支援

(1) ふくい PHOENIX ハイパープロジェクトの始動

ふくい PHOENIX プロジェクトを継承し、令和2年度より新たに「宇宙研究推進本部」を設置し、「ふくい PHOENIX ハイパープロジェクト」として、これまでの活動をさらに大きく展開するとともに、JAXA 宇宙科学研究所と「高性能パラボラアンテナを用いた月探査用衛星地上局の開発と性能実証の研究」に関する共同研究契約を締結しました。

また、大野市・パナソニック株式会社ライフソリューションズ社・本学の3者による国際ダークスカイ協会(IDE)による星空保護区制度「アーバン・ナイトスカイプレイス部門」への申請およびアジア初となる認定を目指す共同記者会見を大野市で行いました。





(2) FAA 福井版 PBL の実施

福井県の「FAA 学ぶなら福井!応援事業補助金」において、福井県版 PBL 支援事業 8 件、大学魅力アップ支援事業 8 件が採択されました。福井県版 PBL では「インバウンド向けコンテンツの開発」「インスタ映えスポットの発掘」「ヘルスツーリズムの開発」などを自治体の地域課題に取り組みました。

*FAA : ふくいアカデミックアライアンスの略、福井県内のすべての大学等が参画する協議体

*PBL : 問題解決型学習

2. 地域を育むダイバーシティの推進

リカレント教育として令和元年度から大学と企業の連携によるエンジニア育成研究

学生支援の充実

1. 主体的に活動するための学生リーダー育成プログラムの開発と運用

(1) 地域活動に必要とされる資質を身に付けた人材の育成

県内企業等の課題を現場で学び課題解決に取り組む実践的な教育、学生が研究の一環として参加する共同研究「FAA 学ぶなら福井!応援事業」にて地元企業の課題に本学の AI&IoT やスポーツ健康科学の技術・知識を活用して課題解決に取り組みました。

また、FAA ふくいアカデミックアライアンスにて、“ふくい”というフィールドで地域に興味を持ち、理解を深めるための地域志向科目を学び、様々な課題に対し、フィールドワークやインターンシップ等を通して「地域に貢献できる人材」を育成するための「ふくい地域創生士」という認定制度を設けています。令和 2 年度は 1 名がふくい地域創生士に認定されました。

プログラムを開講しており、令和 2 年度はオンラインにて開講しました。このプログラムは、大学の高い専門知識を持った教員と本学の充実した設備を活用し、企業が求めている若手から中堅のエンジニアに対する基礎知識の底上げや職場での改善活動の醸成を図るための知識習得を目的とした研修を実施するものです。

また、福井商工会議所との共催による「IT パスポート試験対策講座」にて本学教員が講師を務めました。今後も地元企業等とのつながりを深めて、地域の活性化に貢献することを目指しています。

身につけた人材の育成

学生自身が先頭に立って就職活動をリードし、未来のリーダーになる学生を育てるための講座「CAREER LEADERS CAMP」を実施しています。2・3 年生が参加し、早い段階で各自が希望する進路を意識した上で、思考力や自信を養い、就職活動のスタートダッシュに向けての決意を固めるためのプログラムで、令和 2 年度は 2 日間のオンライン研修を 2 回開催しました。

また、タイ王国で海外インターンシップを受け入れて頂いている海外事業所とオンラインセッションを実施しました。





(3) 就職的自立に必要な就業力を身に付けた人材の育成

福井県の産学官が連携して組織する「福井県インターンシップ推進協議会」における「福井県インターンシップ制度」を実施しており、本学ではその制度と連携し授業に取り入れ、研修前後において「会社の仕組み・職場におけるマナー・体験報告」などの教育を実施し単位を認定しています。

2. 個人の自立に向けたキャリア形成支援

(1) きめ細かな支援の強化

職員の基礎的また専門的な知識・技術の研鑽を積むために、1人あたり年間2回以上の研修に参加し、研鑽を積んでいます。それにより学生支援体制を強固なものにし、多様な学生の支援策の充実にも取り組んでいます。

グローバル化の推進

1. 教育研究のグローバル化

本学では、8か国12の大学等と海外連携協定を締結しています。既存の協定校との交流をより一層深化・発展させることはもとより、新たな連携協定校を模索し、連携の輪を拡充していくことも教育・研究のグローバル化を目指す上で重要と考え、令和2年度に新たにタイ王国の大学1校と協定締結を行いました。

また、すでに協定を締結しているランパーンチャパッド大学(タイ王国)とデザイン学科の学生・教員がオンラインシステムを活用して交流授業およびワークショップを行いました。



(2) 各企業説明会と企業研究会の充実

企業の採用活動スケジュールが、企業によって様々な形態になりつつあることから、早い段階からの企業研究を進めるため、研究会、業種別・地域別企業研究会を実施しています。

また、年間を通して個別企業研究会、個別企業説明会を実施しています。

(3) 離職率調査の実施

学部・大学院の卒業生・修了生が就職した企業や学生の採用に積極的な求人企業先から、意見等を賜り、教育の改革・改善に反映するため、離職率調査および卒業生に関するアンケートを実施しました。

2. 地域・社会のグローバル化への貢献

急速に進展するグローバル化の潮流をにらみながら、県内各自治体においてもインバウンドの取り込みに関心が高まっています。本学のグローバルな活動は、こうした地域社会の需要に大いに貢献しており、留学生が果たす役割も一段と重要になってきています。令和2年度は、連携協定している若狭町から「インバウンドの増加に向け、どのようなコンテンツが有効であるか外国人留学生の目線で調査してほしい」との依頼を受け、International Clubのメンバーが現地調査を行い、自主制作した観光パンフレット(7か国語版)を同町に提供しました。



大学院教育の充実

1. 大学院進学を見据えた教育体系の整備

福井工業大学大学院工学研究科では、それぞれの専攻に学部学科に対応したコースを設け、技術開発の基礎となる学問体系や理論をしっかりと身に付けた上で、高度な専門知識と先進技術を持つ研究者・技術者を養成しています。教員の体制については、複数の指導教員による集団の指導体制に加え、学位取得までのロードマップあるいは研究計画の明示を求め、研究活動の実績を重視した研究指導を行っています。

2. キャリアや経済的サポートの充実

大学院生が研究活動に集中し研究成果を拡大できるよう、本学独自の奨学金制度を設け、学会発表時には補助等の経済的支援・キャリア支援などの幅の広いサポートを実施しています。特に就職においては、大学院の主体性を持った研究活動の経験をもとに、個別の就職指導や就職ガイダンスを実施していることから、令和2年度の就職・進学率は100%となりました。

戦略的な広報

1. 大学ブランド力を向上させる広報

本学ホームページ、広報物等の各種コンテンツの充実、メディアを活用した学生・教職員の活動紹介を強化し、大学ブランド力を向上させる広報活動を展開しています。令和2年度は、ふくい PHOENIX ハイパープロジェクトや AI&IoT センター等、本学の特徴ある研究分野の広報展開を積極的に行いました。これまでの高校生を中心とした入試広報にとどまらず、企業・自治体等の関係者をターゲットとし広く社会に情報発信を行うことで大学のブランド力の向上を図り、イメージ重視の広報からの転換を行いました。

2. 受験者の動向にあわせた入試広報活動の展開

高校生、保護者、高校教員等ステークホルダーのニーズや動向を分析し、各ステークホルダーに向けた情報を発信しています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面でのイベントの実施が困難ななか、オープンキャンパス動画の作成やオンラインによる双方向の説明会ができる環境を整え、新型コロナウイルスの感染状況に沿って各種の入試広報活動を展開しました。





質保証と情報公開

1. 内部質保証の機能向上と教育研究活動等の改善・向上

令和2年度は、学校教育法109条に基づき、公益財団法人日本高等教育評価機構による機関別認証評価を受審し、評価結果として「適合」の判定をいただき、本学の教育・研究及び大学運営は認証評価機関の定める基準に適合するとの認定を受けました。今回の受審にあたっては、内部質保証の向上のため、教育・研究に係る事項をはじめ、法令遵守状況など大学全体で自己点検評価を実施し、一部規程を制定・改訂するなど各種改善を図りました。

また、教育改善に活かすことを目的に学修成果の可視化に関する取り組みを充実させています。令和元年度に引き続き、新入生を対象としたアセスメントテスト(自己分析webテスト)を実施し、Microsoft社の分析ソフト「PowerBI」を活用し、データの分析・可視化を行いました。





3. 福井中学校・高等学校

高等学校において、来年度から新学習指導要領が施行され、教育内容 Society5.0 の新しい時代に向けた人材育成が求められるようになります。それに伴い、本校でも探究・教科横断・ICT授業やグローバル教育、さらには主体性や学びに向かう力を育成するために様々な取組を行っています。

1. 生徒の満足度を高める教育体制の構築

① 6年一貫教育を実現する学校体制の構築

従来は中学校・高校で校時程が異なり、中学と高校両方の授業を持つ教員の相互乗り入れが行いにくい現状がありました。そこで、中高をつなぐためにも校時程の一本化を実現しました。

【福井中・高 45分7コマ授業】	
8:15~	朝礼
8:30~ 9:15	1限目
9:20~10:05	2限目
10:15~11:00	3限目
11:05~11:50	4限目
12:00~12:45	5限目
12:45~13:35	昼休み・給食指導
13:35~14:20	6限目
14:25~15:10	7限目
15:15~15:30	清掃指導
15:30~	終礼

令和3年度の新校時程

授業は、1日7コマの45分授業を行い、授業時間数を十分に確保して「知識・技能」を習得させます。また、45分授業を2コマ繋げて90分授業とすることで、グループワークや教科探究、プレゼンテーションやディベートなど時間をかけて行うことができ、生徒の「思考力・判断力・表現力」や「協働性」などを育成します。

放課後活動は、学業とクラブ活動の両面を充実させ、生徒にやりたい活動を選択さ

せることで、生徒の「主体性」を育成します。学業に関しては、難関大学合格を目的とするものから資格取得を目的とするものまで、幅広い講座を開講します。クラブ活動においては、従来と同様の放課後の活動時間を確保できるため、これまで通り全国大会優勝を目指して、十分な練習ができます。

② ICT教育の充実

中高共に、双方向オンライン授業の整備を進めることで、休校中や自宅待機になった生徒はオンラインで授業に参加をすることが可能になりました。これにより、生徒が安全に登校できない状況が生じた場合の学習の遅れを少しでも生じさせないよう支援することができます。



中学校オンライン朝礼の様子

また、高校では特進校舎にWi-Fi環境、全教室にICT授業に必要な不可欠なプロジェクターを設置しました。令和3年度より、特別進学科の1年生は個人のタブレットを購入して、双方向によるICT授業が可能になります。また令和3年度には、高校1・2号館と専攻科のWi-Fi設備の導入も予定しており、さらなるICT化が期待されます。



2. 教員の質の向上

①研究授業の充実

全教員対象で地歴公民科による研究授業を実施しました。ICTを活用した授業の研究で、プロジェクターとタブレットのアプリケーション「MetaMoJi」を活用したものです。令和3年度から特別進学科の1年生の生徒全員がタブレットを持ち、MetaMoJiのソフトウェアを使用します。この研修を通して、教員全体のICT授業の必要性やノウハウを共有することができました。



研究授業後の全体会の様子

②授業の質を高めるチーム体制

日々の授業の質を高めるため、若手を中心に授業研究チームを構成し、さらに3つのチームに分かれて授業力の向上に取り組みました。

・「ICT教育チーム」

10月に全教員に向けてプロジェクター活用研修会を行い、11月にはICT活用WeekとしてICTを活用した授業展開を行い、全教員が3回以上の授業参観を行いました。9月には、授業支援アプリケーションMetaMoJiの研修も行い、効果的にICTを活用した授業展開が期待されます。



・「教科横断授業チーム」

教科を超えた授業を行うことで、別の視点から教科を捉え、深い学びを行うことを目的として、教科横断授業を実施しました。

(国語) × (英語)	(数学) × (社会)
古典作品について、本文と英訳・現代語訳を比べ、英語と国語の両者に対する見識を深める。	世界史の中にある「暗号」について、社会状況と照らし合わせながら数学的に思考する。



教科横断型授業の様子

・「教科探究・課題発見型授業チーム」

全教員で4人1組のグループを作成し、グループ内で「探究」をキーワードとした授業を実施し、振り返りを行いました。授業者はその授業で何を目的とし、どんな取組を行うかを計画し、メンバーはその取組について特に観察し、授業実施後に議論しました。さらに他教科ならどのように活かすことができるかを考えることで、日々の授業の選択肢を増やし、授業力向上に繋げることができました。



授業後の振り返りの様子



3. グローバル教育の充実

①ALTとのTT授業とALTによる朝終礼（特別進学科）の実施

週1時間ALTによる授業を継続する中で、プレゼンテーション、インタビューテスト、ストーリーテリングなど、多くの活動を行いました。最初は自信を持てず、原稿を読み上げるだけの生徒が多くいましたが、次第に声の大きさやアイコンタクトに気を配り、堂々と発表できる生徒が増えました。

また週に1回、朝礼または終礼時にALTが教室を訪れ、身近な話題に関する意見を述べたり、生徒同士でインタビューし合ったりと、授業時間以外にも英語を聞いた話ししたりする機会を設けました。



ALT との授業の様子

②英語ディベート大会に出場

特別進学科の1・2年生13名が研修会に参加し、3チームが大会に出場しました。オンラインによる研修が3回行われ、大会ではNOVICEの部で3位を獲得しました。英語4技能だけでなく、時事問題に関する知識や、傾聴力など総合的な力が必要とされることを生徒自身が実感し、その後の学習に意欲的に取り組む良いきっかけとなりました。今後もディベート大会やスピーチコンテスト等、外部の催しに積極的に参加し、生徒が英語を実践的に使うことができる機会を設けていきます。



ディベート研修の風景（オンライン）

③全校生徒で取り組むSDG s

「私たちはSDG sの達成にどう貢献していくか ～ユネスコスクールで目指すSDG s～」のテーマに基づいて全学年でSDG sについて調べ、グループで課題を見つけ、その研究結果をまとめました。

高校3年生の代表チームは、「海の豊かさを守る」というテーマのもと、45年間で海洋生物の個体数が半減しており、それはプラスチック問題やマイクロビーズ問題、流出油の問題など人為的な要因が大きく、私たちにもできることを一人一人が意識していくことが大切であると報告していました。

本校は「ふくいSDG sパートナー」にも登録しており、環境教育や国際理解教育等の持続可能な発展に関わる諸問題に対応できる人材を育成していきます。



代表チームの資料例



4. 生徒の主体性を生かした自治活動の実施

何事にも主体的に取り組み、やりがいを感じられる人間力の育成、リーダーシップの取れる生徒の育成を目的に、自治活動の活性化を図ります。

①生徒会活動の活性化に向けて

令和2年度より、中学校生徒会組織を生徒達の活動の幅をより広げていけるよう再構築し、運営を進めてきました。今後は、中高生徒会が連動して活動内容について検討していく必要があります。

その土台となる生徒たちが活動しやすい環境づくりを推し進めるため、以下の内容を提案します。

・生徒会執行部を重要視した組織づくり

生徒会執行部が学校全体の司令塔となり、各種委員会や各学級係と組織的な連携（トップダウン&ボトムアップ）を推進します。

・委員会活動時間の確保

中学校は現在、特別活動時に月一回実施にており、高校でも放課後もしくはHRを活用して実施することを検討しています。

・委員会リーダーや学年リーダーの養成

宿泊行事や学校行事での実践を通して、リーダーの育成を目指します。

・中高生徒会の定期的なミーティング実施

・教員のスキルアップ研修

次年度からは、委員会や学年リーダー養成に関して、重点的に取り組んでいこうと考えています。中高教育活動の様々な場面において、生徒の主体性を生かした自治活動を展開していくためには、リーダーの養成が欠かせません。そのための新事業として、年2回の「みさきち」等を活用したリーダーシップ養成宿泊行事を企画していき

いと考えています。ゲストからレクチャーを受けたり、小さな企画・運営を生徒達の手で計画・実現したりする体験を積ませ、実際の学校行事や新企画の立案・運営に繋げていけるよう導線づくりしていきます。また、生徒のアイデアや表現力を引き立たせるためには教員のバックアップが重要であり、教員対象の研修会につきましても充実させていきたいと考えています。

②ボランティア活動の活性化に向けて

例年、中高清掃ボランティア活動や部活動等によるボランティア活動が行われています。しかしながら、一過性の活動となっており、全ての生徒に奉仕の心が十分に育まれていない現状を鑑み、日常的に体感できる機会を増やし、内容を充実させていく必要があります。そのためには各学級や学年、各種委員会で生徒達に話し合う場を設け、やらされる意識から自己選択・決定する意識へと改変していかなければなりません。日常的な取組の積み重ねが、定期的な中高ボランティア活動へと繋がるよう、検討していきたいと思ひます。

できることから実践し、生徒と教員が共働体験を積み重ねていく中で、何事にもやりがいを感じ、主体的に取り組む人間力の育成を図っていきたくと考えています。



毎朝のボランティア清掃活動



4. 法人本部

1. ブランドメッセージの浸透

令和元年度に策定したブランディング(「知をつなぐ。「未来」を創る。)とその根幹を成す「ブランドプロミス」の視覚的な浸透の手法として、キービジュアルを作成しました。デザインは大学のF's Design Studioに協力を依頼し、ブランディング推進チームと広報企画会議メンバーにて決定しました。また、学園からの広報ツール全て(学園ホームページ特設サイト、学内用ポスター、学園総合案内、名刺、封筒等)にこのキービジュアルとタグラインのデザインを反映させ、浸透を図りました。

■キービジュアル(通称)「知球」



これまで親しまれてきた学園の3色のシンボルマークとシンクロしながら、持続可能な環境の

維持に貢献し、知をつなぐ場となっていく新しい学園のイメージを象徴しています。

2. 「夢」を実現するための意識改革

(1) 職員インターンシップの実施

職員組織の活性化を推進するきっかけとして、各部署におけるインターンシップ(他部署業務体験)を実施しました。インターンシップには希望者と被推薦者の計39名が参加。体験後には報告会を開催し、自身の部署との相違点や他部署での業務体験で得られたことなどを中心に情報共有をましました。新たな視点で業務を捉え、業務を相解



理解するとともに、自身の業務向上に役立ててほしいと思います。

(2) 中高組織の改編

教員が本来の業務に向かえる環境を整え、学級経営や生徒指導、学習指導等の資質向上を目的とし、次の通り、中高組織の改編と勤務体系の見直しを行いました。

- ・事務組織の拡充と教員校務分掌の縮小
- ・年間変形労働時間制による各月労働時間の調整
- ・簡易的フレックスタイム制の導入

この改編により、私学労務研究会による「私学の働き方改革宣言校」の認証を取得しました。



また、中高教員(専任及び嘱託)の勤務実態について毎月の勤務表を基に実労働時間の分析を行い、これまで明確化されていなかったクラブ指導教員、管理職、担任学年や教科による勤務実態の格差等を分析。その結果を基に、勤務実態に即した給与・手当額の見直しを行い、令和3年度より適用することとしました。

3. 学校教職員のイメージを変える採用活動の推進

(1) インターンシップの実施

学生の就職活動において、インターンシップに参加することへの重要度はますます高まっています。そんな中、コロナ禍においては従来行われていた対面式での実施は難



しく、オンライン化を取り入れるなど工夫を凝らす必要がありました。

令和2年度は、感染予防対策を徹底した上で夏季と冬季にインターンシップを実施しました。夏季は対面式で3日間、冬季はWEB編と探求編(対面式とWEB同時開催)に分け、それぞれ1日の実施としました。グループワークや各部署の職員とのディスカッションを中心に、学生達が主体的・能動的に活動できる内容とし、最終日の成果報告会では、学生らしい柔軟で真新しい発想を展開していました。



(2) 合同企業説明会のオンライン対応

中高教員・学校職員の採用活動の一環である合同企業/学校説明会がコロナ禍によりオンライン実施となり、ライブ形式やオンデマンド形式で教職員募集の周知に努めました。オンラインでの説明会は学生や求職者の様子がうかがえず、常に一方的な説明になりがちというデメリットがある一方で、学生・求職者の参加が容易であること、また、エリアを北陸・関西などに絞らず、全国にいる方々を対象にできることなどメリットも多くありました。オンラインという限定された状況の中でも双方向性をつくり出し、学生・求職者とのコミュニケーションを取りながら、本学で働くことの魅力について伝える機会にできたと考えています。



4. 学園基盤の強化

本学で学ぶすべての学生・生徒により安定的に教育研究活動に取り組んでいただくため、また、すべての教職員が安心して質の高い教育を提供するためには、財務基盤の強化は必要不可欠です。その対策の一環として、令和2年度は大学および高等学校において授業料の見直しを図りました。

加えて、少子高齢化社会に対応するための市場拡大と介護士人材の養成という社会的要請に応えるべく、ベトナムの日本語学校と協定を進める本学は平成30年秋より、留学生受け入れ実績がある福井県医療福祉専門学校を有する学校法人新和学園との合併について協議を重ねてきました。これについて令和3年1月下旬に文科省認可があり、令和3年4月1日、福井製菓専門学校及び福井公務員専門学校との3校を有する学校法人新和学園と合併をしました。

5. 「金井学園70年のあゆみ(2009~2019)」の発刊

2019年に学園が創立70周年を迎えたことに合わせ、予てより編集を進めてきた“金井学園70年史”を令和2年9月1日に発刊しました。特に直近10年間(2009年度~2019年度前期)の歴史的歩みを重視した内容としたこと、更に、将来迎える周年に向け継続性を持たせることを考慮し、タイトルは『金井学園70年のあゆみ(2009~2019)』(A4判)と改めました。また、従来の年史に比べ資料集のボリュームを大幅に増やし、より実用的な年史としました。





5. 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

【法人本部】

- ・ 学校法人新和学園との合併
福井県医療福祉専門学校、福井製菓専門学校、福井公務員専門学校を設置する学校法人新和学園との合併申請を行い、令和3年1月認可

【福井工業大学】

- ・ 大学機関別認証評価受審「適合認定」
- ・ ふくい PHOENIX ハイパープロジェクトの始動

【福井高等学校・福井中学校】

- ・ 高等学校および中学校の校時程変更

6. 施設等の状況

主な施設設備の状況は次のとおりです。

(令和3年3月31日現在)

所在地	施設等	面積等 (うち、所有地)	帳簿価額	摘要
福井県福井市 (福井キャンパス)	校地	71,100㎡ (38,710㎡)	2,506,681千円	大学、高校、中学校及び法人本部が利用している。
	校舎等	78,268㎡	12,944,233千円	
福井県福井市 (角折校地)	校地	15,827㎡ (13,020㎡)	243,476千円	クラブ活動に利用している。
	校舎等	1,878㎡	86,238千円	
福井県あわら市 (芦原キャンパス)	校地	159,387㎡ (105,603㎡)	1,138,688千円	大学の学部の一部とクラブ活動に利用している。
	校舎等	10,511㎡	1,447,226千円	
福井県吉田郡 永平寺町 (カール・マイヤー グラウンド)	校地	121,085㎡ (121,085㎡)	138,740千円	大学及び高校のグラウンドとして利用している。
	管理棟等	916㎡	68,533千円	

(令和2年度 事業)

- ・ 旧 JA 東安居支店跡土地購入 (令和2年8月購入)
- ・ 高校1号館前バス停改装工事 (令和2年7月完成)
- ・ 車両購入 送迎用路線バスの入替購入 (令和2年8月購入)
馬運車の入替購入 (令和2年9月購入)

(令和3年度 事業)

- ・ 大学女子寮の建設工事 (令和4年3月予定)
- ・ 高校野球グラウンド外野フェンス・衝撃緩衝材設置工事 (令和4年3月予定)

○耐震化率 99.14%



1. 決算の概要

1-1 資金収支計算書

【概要】

資金収支の規模は、前年度比 436 百万円減の 14,440 百万円となりました。

まず、収入の部については、主たる収入である学生生徒等納付金収入において、在籍者数の減少により、前年度比 8 百万円減の 3,730 百万円となりました。

補助金収入では、前年度比 66 百万円増の 1,071 百万円となりました。

また、資産売却収入は、本年度有価証券に関する動きはなく、備品及び車両の売却のみとなったことにより、前年度比 300 百万円減となりました。

一方で、その他の収入は、未収入金収入、立替金回収、特定資産からの繰入収入などが前年度の 8,488 百万円に対し、今年度は 7,886 百万円となりました。

支出の部については、教育研究経費支出では、全体で前年度比 39 百万円減の 1,584 百万円となりました。また、今年度は大規模工事等がなかったことから、施設関係支出は 270 百万円となりました。なお、設備関係支出は前年度比 20 百万円増の 330 百万円となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

収入の部	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
学生生徒等納付金収入	3,598,654	3,687,808	3,701,001	3,742,829	3,734,450
手数料収入	55,990	50,612	55,899	74,923	60,618
寄付金収入	127,645	45,159	158,984	94,849	90,829
補助金収入	979,840	1,023,897	1,024,248	1,005,655	1,071,471
資産売却収入	474,165	1,068,222	14,030	303,400	1,291
付随事業・収益事業収入	87,896	62,976	48,631	64,174	46,697
受取利息・配当金収入	194,409	172,864	70,850	105,052	105,804
雑収入	116,243	136,737	80,580	84,492	113,042
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	636,101	553,969	584,893	481,868	430,625
その他の収入	10,918,532	11,422,961	9,560,747	8,488,114	7,885,748
資金収入調整勘定	△ 904,441	△ 844,581	△ 737,434	△ 772,125	△ 682,381
前年度繰越支払資金	5,256,784	4,082,257	2,163,752	1,202,034	1,581,160
収入の部合計	21,541,816	21,462,881	16,726,182	14,875,265	14,439,354

支出の部	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人件費支出	2,502,060	2,498,455	2,445,834	2,474,605	2,502,254
教育研究経費支出	1,607,953	1,570,891	1,746,476	1,622,533	1,583,513
管理経費支出	542,710	576,332	623,047	611,429	614,771
借入金等利息支出	1,501	549	37	0	0
借入金等返済支出	95,907	52,330	6,110	0	0
施設関係支出	1,191,510	1,513,559	944,286	245,927	269,593
設備関係支出	434,716	410,495	251,874	311,351	333,758
資産運用支出	8,578,493	11,074,423	7,450,462	6,252,351	5,753,202
その他の支出	3,010,857	2,290,472	2,454,006	2,053,850	1,824,503
資金支出調整勘定	△ 506,147	△ 688,378	△ 397,982	△ 277,941	△ 373,166
翌年度繰越支払資金	4,082,257	2,163,752	1,202,034	1,581,160	1,930,927
支出の部合計	21,541,816	21,462,881	16,726,182	14,875,265	14,439,354



1-2 事業活動収支計算書

【概要】

設置する大学および高等学校における定員の充足、ならびに学園全体での経費削減に努めてはおりますが、教育活動収支差額の前年度比 95 百万円増、教育活動外収支差額の前年度比 52 万円増、よって経常収支差額は前年度比 95 百万円増（マイナス 840 百万円）となりました。

また、特別収支差額は、100 百万円増の 176 百万円の計上となりました。よって、基本金組入前当年度収支差額は、前年度比 13 百万円改善の△665 百万円、当年度収支差額は前年度比 265 百万円増の 1,240 百万円の支出超過を計上し、翌年度繰越収支差額は 10,954 百万円の支出超過となりました。事業活動収入計は前年度比 191 百万円増加となりました。

【経年比較表】

(単位：千円)

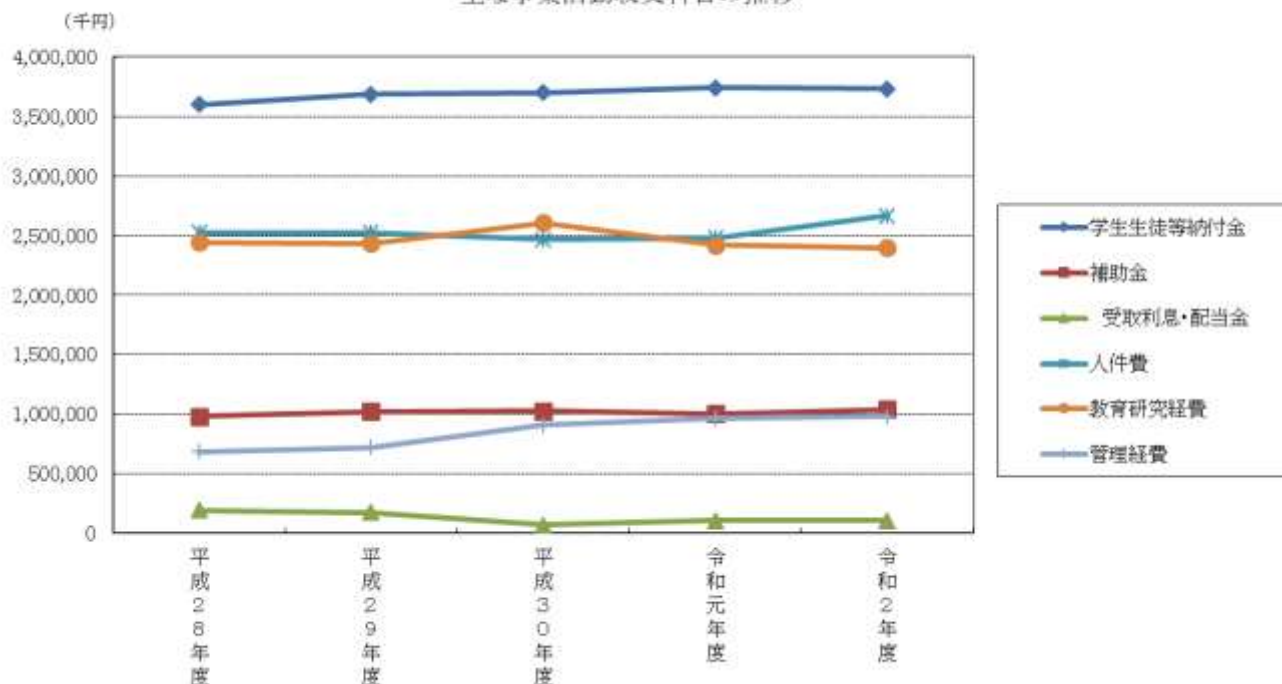
科目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動収入の部	事業活動収入					
	学生生徒等納付金	3,598,654	3,687,808	3,701,001	3,742,829	3,734,450
	手数料	55,990	50,612	55,899	74,922	60,618
	寄付金	127,765	55,704	158,984	94,849	90,829
	経常費等補助金	915,653	957,439	1,010,630	955,866	1,037,843
	付随事業収入	89,004	62,279	48,789	63,754	46,459
	雑収入	152,880	151,288	90,496	88,992	129,182
	教育活動収入 計	4,939,945	4,965,130	5,065,798	5,021,215	5,099,381
	事業活動支出の部					
	人件費	2,527,142	2,524,421	2,464,680	2,478,838	2,668,582
教育研究経費	2,443,743	2,435,491	2,605,343	2,420,844	2,399,528	
管理経費	684,853	720,311	906,596	964,233	979,086	
徴収不能額等	8,784	14,844	17,419	9,742	-	
教育活動支出 計	5,664,521	5,695,067	5,994,038	5,873,658	6,047,197	
教育活動収支差額	△ 724,576	△ 729,937	△ 928,240	△ 852,443	△ 947,815	
科目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
教育活動外収支	収入の部					
	受取利息・配当金	194,409	172,864	70,850	105,052	105,804
	その他の教育活動外収入	187	0	0	400	168
	教育活動外収入 計	194,596	172,864	70,850	105,452	105,972
	支出の部					
	借入金等利息	1,501	549	37	0	0
その他の教育活動外支出	0	36	101	0	1	
教育活動外支出 計	1,501	585	138	0	1	
教育活動外収支差額	193,096	172,280	70,713	105,452	105,971	
経常収支差額	△ 531,481	△ 557,658	△ 857,528	△ 746,991	△ 841,845	
科目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
特別収支	収入の部					
	資産売却差額	476,705	52,667	27,064	11,549	141,197
	その他の特別収入	83,892	66,474	26,085	64,436	47,119
	特別収入 計	560,597	119,141	53,149	75,985	188,316
	支出の部					
	資産処分差額	129,955	26,924	305,986	6,549	11,708
その他の特別支出	0	7	0	431	0	
特別支出 計	129,955	26,931	305,986	6,980	11,708	
特別収支差額	430,642	92,210	△ 252,837	69,005	176,607	
基本金組入前当年度収支差額	△ 100,839	△ 465,449	△ 1,110,364	△ 677,985	△ 665,237	
基本金組入額合計	△ 1,966,177	△ 471,859	△ 583,118	△ 297,420	△ 575,129	
当年度収支差額	△ 2,067,016	△ 937,308	△ 1,693,482	△ 975,405	△ 1,240,366	

(参考)

事業活動収入計	5,695,139	5,257,136	5,189,798	5,202,653	5,393,669
事業活動支出計	5,795,977	5,722,583	6,300,162	5,880,638	6,058,906



主な事業活動収支科目の推移



1-3 貸借対照表

【概要】

本年度の資産総額は、前年度比 461 百万円減の 32,980 百万円となりました。資産の部において、土地の取得のほか、建物、構築物では年次計画による改修等を実施しました。

負債の部において、退職給与引当金の増加により、負債総額は、前年度比 200 百万円増の 2,000 百万円となりました。なお、借入金は、ありません。

【経年比較表】

(単位：千円)

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
固定資産	31,959,792	33,394,635	32,937,232	31,634,748	30,798,803
流動資産	4,365,812	2,459,716	1,455,578	1,807,266	2,181,694
資産の部合計	36,325,604	35,854,351	34,392,810	33,442,014	32,980,497
固定負債	1,119,713	1,042,946	999,806	985,935	1,138,206
流動負債	1,370,071	1,441,035	1,132,998	874,058	925,508
負債の部合計	2,489,784	2,483,980	2,132,804	1,859,993	2,063,714
基本金	42,426,780	40,414,624	40,997,742	41,295,163	41,870,292
繰越収支差額	△ 8,590,960	△ 7,044,253	△ 8,737,736	△ 9,713,142	△ 10,953,509
純資産の部合計	33,835,820	33,370,371	32,260,006	31,582,021	30,916,783
負債及び純資産の部合計	36,325,604	35,854,351	34,392,810	33,442,014	32,980,497



2. 主な財産比率比較

比 率	計算式	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	49.2%	49.1%	48.0%	48.4%	51.3%
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	70.2%	68.5%	66.6%	66.2%	71.5%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	47.6%	47.4%	50.7%	47.2%	46.1%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	13.3%	14.0%	17.6%	18.8%	18.8%
借入金等利息比率	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-1.8%	-8.9%	-21.4%	-13.0%	-12.3%
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入 - 基本金組入額}}$	155.4%	119.6%	136.8%	119.9%	125.7%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	70.1%	71.8%	72.1%	73.0%	71.7%
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	2.2%	1.1%	3.1%	1.8%	1.7%
経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	2.5%	1.1%	3.1%	1.9%	1.7%
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	16.1%	18.2%	19.5%	18.4%	19.2%
経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	17.8%	18.6%	19.7%	18.6%	19.9%
基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	34.5%	9.0%	11.2%	5.7%	10.7%
減価償却額比率	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	16.7%	17.7%	18.8%	19.6%	19.5%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-14.1%	-10.9%	-18.1%	-14.6%	-16.6%
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-14.7%	-14.7%	-18.3%	-17.0%	-18.6%

○ 「学校法人会計基準」に基づく事業活動収支計算書を用いて、表に示された計算式により、比率を算出しました。

※1 経常収入 = 教育活動収入計 + 教育活動外収入計

※2 経常支出 = 教育活動支出計 + 教育活動外支出計



3. その他

3-1. 有価証券の状況

(単位：千円)

		(令和3年3月31日)		
		貸借対照表計上額	時価	差額
計上額が貸借対照表を超えるもの	有価証券	390,535	534,896	144,361
	減価償却引当特定資産	1,652,473	1,919,696	267,223
	施設設備拡充引当特定資産	1,662,300	2,491,711	829,411
	退職給与引当特定資産	161,402	229,964	68,562
	第3号基本金引当特定資産	1,000,000	1,060,372	60,372
	教育研究基金	0	0	0
	計	4,866,710	6,236,639	1,369,929
	(うち満期保有目的債券)			0
計上額が貸借対照表を超えないもの	有価証券	1,559	1,559	0
	減価償却引当特定資産	646,396	599,724	△ 46,672
	施設設備拡充引当特定資産	643,500	505,576	△ 137,924
	退職給与引当特定資産	180,166	180,166	0
	第3号基本金引当特定資産	0	0	0
	計	1,471,621	1,287,025	△ 184,596
	(うち満期保有目的債券)			0
	合計	6,338,331	7,523,664	1,185,333
(うち満期保有目的の債券)			0	
	時価のない有価証券	1,910		
	有価証券合計	6,340,241		

種類	(令和3年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
債券	0	0	0
株式	679,186	749,234	70,048
投資信託	2,289,976	2,553,216	263,240
その他	3,369,169	4,221,214	852,045
計	6,338,331	7,523,664	1,185,333
	時価のない有価証券	1,910	
	有価証券合計	6,340,241	

3-2. 借入金の状況 …… なし

3-3. 学校債の状況 …… なし



3-4. 寄付金の状況

○教育振興寄付金（大学：1口5万円、高等学校・中学校：1口3万円）

令和2年 募集実績

・大学	3,421 千円
・高等学校	3,030 千円
・中学校	770 千円

○一般寄付金

・株式会社 C&B	5,000 千円
・株式会社エフ・ケイ・ケイ	5,000 千円
・荏原商事株式会社	3,000 千円
・株式会社福井銀行	2,000 千円
・株式会社山田組	2,000 千円
・株式会社メディアミックス	2,000 千円
・株式会社文珠四郎管工商会	1,000 千円

・その他 PTA 寄付金、卒業寄付金

3-5. 補助金の状況

【福井工業大学】

・令和2年度授業料等減免事業	123,243 千円
・原子力人材育成等推進事業（文部科学省・原子力規制庁）	21,234 千円
・令和2年度 FAA 学ぶなら福井！応援事業	10,270 千円
・令和2年度 私立学校情報機器整備費補助金（遠隔授業）	9,375 千円

【福井工業大学附属福井高等学校】

・教育振興補助金魅力アップ（福井県）	72,735 千円
--------------------	-----------

【福井工業大学附属福井中学校】

・令和2年度 県内修学旅行支援事業補助金	1,155 千円
----------------------	----------



3-6. 収益事業の状況

収益事業として、不動産賃貸業及び福井県立馬術競技場（福井ホースパーク）及び若狭町みさき漁村体験施設（みさきち）の指定管理を行っており、その状況は以下のとおりです。

【貸借対照表】

（単位：千円）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
流動資産	234,059	262,536	306,523	337,191	388,819
固定資産	849,435	822,472	797,730	787,601	816,975
資産合計	1,083,494	1,085,008	1,104,253	1,124,792	1,205,795
流動負債	23,717	16,962	17,802	15,008	30,918
固定負債	1,024	1,215	1,215	840	3,700
負債合計	24,741	18,177	19,017	15,848	34,618
純資産合計	1,058,753	1,066,831	1,085,236	1,108,943	1,171,176
負債・純資産合計	1,083,494	1,085,008	1,104,253	1,124,791	1,205,795

【損益計算書】

（単位：千円）

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
事業収入	74,025	74,607	76,573	76,970	82,976
補助金収入	0	0	0	0	0
一般管理費	89,172	68,083	79,291	71,327	73,102
営業利益	△ 15,147	6,524	△ 2,718	5,643	9,874
営業外損益	1,611	1,554	1,122	1,622	1,463
経常利益	△ 13,536	8,078	△ 1,596	7,265	11,337
特別損益	△ 1	0	0	△ 75	0
当期純利益	△ 13,537	8,078	△ 1,596	7,190	11,337

3-7. 関連当事者との取引の状況

会社等の名称	資本金等	出資割合	取引の内容	摘要
株式会社 C&B	3,000千円	48%	不動産賃貸業務委託、人材派遣契約の締結	理事長が52%出資。委託費180万円支払い。

4. 来年度以降の展望

第3次中期計画の2年目となった令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響下ではありましたが、前年度に引続き財務5ヵ年計画の目標水準を上回る結果となりました。ただし、累積収支の実状としては未だ支出過多の状況が続いております。第3次中期計画の折り返し年度となる令和3年度以降も、「厳格化」が教育・研究への

影響を心配されないか、1つ1つの取組の中において、“すべてを学生・生徒のために”の学園基本理念の下、教育環境の充実、学生・生徒へ更に質の高いサービスの提供を実現するために、収入の安定化を図り、メリハリのある支出を行うことで収支均衡を目指し、財務のさらなる改善に努めてまいります。